（別紙様式３）

令和３年３月 31 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　長野県長野市大字幅下 692-2
管理機関名　長野県教育委員会
代表者名　教育長　原山　隆一

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和２年４月 10 日　～　令和３年３月 31 日

２　指定校名・類型
学校名　長野県長野高等学校
学校長名　宮本　隆
類型　グローカル型

３　研究開発名
SDGs 未来都市を創造するグローカルファシリテーターの育成

４　研究開発概要
「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」を育成する探究を学校設定教科「NGP」，学校設定科目「英語キャリアプロジェクト」及び総合的な探究の時間で行う。国際会議を開催し地方創生に繋がる政策を提言し，コンソーシアムとの協働により発信する。学校だけでは完結しない，新しい学びの体系を研究開発する。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　有
・教育課程の特例の活用　有

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
中村　正行	信州大学工学部教授	委員長
山口　利幸	元長野県教育長	副委員長
久世　良三	株式会社サンクゼール代表取締役会長	

清水　唯一朗	慶応義塾大学総合政策学部教授	
中川　美紀	ソフトインテリジェンス塾代表・ビジネスアナリスト	

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
長野市	加藤　久雄
長野県企画振興部総合政策課	小野沢　弘夫
長野県教育委員会	原山　隆一
信州大学教育学部	永松　裕希
信州大学工学部	天野　良彦
長野県立大学	金田一　真澄
東京海上日動火災保険株式会社長野中央支社	橋本　有司
長野青年会議所	中川　大三
八十二銀行	宮沢　幸一
金鵄会（同窓会）	桃林　聖一

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	－	－	－
海外交流アドバイザー	恵崎　良太郎	松本空港国際化特別顧問	月１回程度来校（報償なし）
地域協働学習支援員	岩破　幸平	東京海上日動火災保険株式会社長野中央支社　広域・グローバル支援担当	随時支援（報償なし）
	中村　真紀子	元長野放送報道部及び広報部	非常勤職員として県が雇用

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(ｱ)運営指導委員会の設置及び開催	←	—	—	↔	—	—	—	—	—	—	↔	→
(ｲ)SHフォーラム											↔	
(ｳ)「探究的な学び」研究会				↔								
(ｴ)指定校取組の紹介	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
(ｵ)人事面における配慮	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→

（2）実績の説明

①　管理機関による管理方法

県教育委員会所管課（学びの改革支援課）に担当指導主事を置き，指定校の取組に係る手続等を一括管理。同課内に置く他の文部科学省事業指定校を担当する指導主事との間で情報共有及び

連携を日常的に行うとともに，指定校事業担当者に対して，事業全般に係る恒常的な指導・助言を行った。

② コンソーシアムの体制強化と地域連携の推進

コンソーシアム構成団体を９団体から10団体にするとともに，コンソーシアム構成団体間の連携・協働体制の強化を図った。

③ 管理機関による主体的な取組

（ア）運営指導委員会の設置及び開催

・研究開発関連授業の参観，取組の概要説明，意見交換及び指導。
７月31日（金）オンライン会議，２月９日（火）オンライン・対面の併用会議

（イ）SH（スーパーハイスクール）フォーラムの開催　２月18日（木）オンライン会議

・文部科学省事業指定校の高等学校を中心に構成する会議。分野を越えて，各パイロット校がその研究開発の成果及び課題を報告・共有し，カリキュラム研究開発の水準をさらに高めるとともに事業内容の向上を図る。

（ウ）「探究的な学び」研究会の開催　７月２日（木）オンライン開催

・県立高等学校の担当者が集まり，指定校の研究開発について学び，自校における学びの充実に資する。

（エ）指定校取組の紹介

・指定校の研究開発成果，運営指導委員会の内容について広報し，本事業について周知を図る。

（オ）人事面における配慮

・県の「カリキュラム編成支援事業」により，地域協働学習実施支援員を配置 。
・外国語指導助手（ALT）１名に加え，実績のある特に優秀な外国人講師をグローバル講師として県独自に雇用し，そのうち１名を長野高校に配置。

④ 事業終了後の自走を見据えた取組について

（ア）地域協働学習実施支援員の配置の継続等，コンソーシアムの継続に係る予算措置。

・事業終了後も海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員及びグローバル講師を配置する等，本事業の骨格を維持するため予算措置を行う予定。

（イ）発信力育成講座の発展・継続

・プレゼンテーション及びディスカッションに係る大会を実施し，県内高校生の発信力育成の充実を図る。

（ウ）「探究的な学び」研究会

・県立高等学校の学習指導担当者が集まり，指定校の研究開発の軌跡について学び，各校における「探究的な学び」の充実に資する研修会を開催。

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目 ※①②総合的な探究の時間③総合的な学習の時間	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①　「長野のグローカル戦略を探る」	←											→
②　「SDGs から見た長野のグローカル戦略」	←											→

③　「グローカルアカデミア」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→	
④　課題探究中間発表会（１年）											↔	
⑤　課題研究発表会（２年）							↔					
⑥　グローカルアカデミア発表会・国際会議		↔		↔								
⑦　「英語キャリアプロジェクトⅠ」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→	
⑧　「英語キャリアプロジェクトⅡ」	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→	
⑨　台湾との協働プロジェクト（オンライン）							←	—	→			
⑩　台湾研修のための連携会議（オンライン）				↔				↔				
⑪　米国リーダー研修（中止）												
⑫　グローバル人材育成プログラム（⑪の代替）	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→	
⑬　上記以外の校外との連携プログラム	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
⑭　成果の普及	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→	
⑮　グローカル事業研究報告書												↔
⑯　グローカル事業評価委員会											↔	

（２）実績の説明

①　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

・学校だけでは完結しない，全生徒対象の新しい学びの体系を研究開発する。「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」の３つのスキルを育成するために，学校設定教科・科目，校外フィールドワーク，外部人材活用，遠隔授業，海外研修，教科横断的な学びを日常の授業の中に位置付けている。

・地域課題研究に係る全体テーマ「コンソーシアム・連携組織との協働による，長野県が抱える地域課題の解決と，『SDGs 未来都市』計画の実現に向けた効果的な戦略の研究」を踏まえ，長野県が抱える課題解決に資するテーマを設定し，課題研究を行っている。

②　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な探究／学習の時間，学校設定教科・科目等）

・学校設定教科「NGP」(NAGANO GLOCAL PROJECT)を設定し，学校設定科目「英語キャリアプロジェクトⅠ，Ⅱ」、「長野のグローカル戦略を探る」及び「SDGs から見た長野のグローカル戦略」で，１・２年生全員が課題探究を行い，新しい学びを実現するカリキュラムを開発・実践している。

・３年次は「グローカルアカデミア」選択生を中心に国際会議を開催し，国内外の関係者と生徒が広く議論を交わし，地方創生につなげる政策提言を行った。さらに，その提言をコンソーシアムとともに広く発信し，３年間における学びの集大成とした。

③　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ，教科等横断的な学習とする取組について

（ア）課題研究「長野のグローカル戦略を探る」（「総合的な探究の時間」１学年全員　１単位）

・フィールドワークⅠ　　11/30(月)
・課題研究中間発表会　　２/９(火)・10(水)
・課題研究論文作成　　２/５(水)～３月

（イ）課題研究「SDGs から見た長野のグローカル戦略」（「総合的な探究の時間」２学年全員　１単位）

・フィールドワーク相談会,スキル養成講座　７/11(土)　(YouTube Live 使用)
・フィールドワークⅡ　８/31(土)　主にオンラインでのインタビュー
・テーマ探究及び発表会準備　９月～12 月
・プロジェクト発表会及び課題研究発表会　12/16(水)　地元企業・コンソーシアム
・クラス別フィールドワーク　　12/24(木)～25(金)

マイクロツーリズムを実践し，県内または近県の観光資源を調査
・研究論文作成　１月～２月
（ウ）課題研究「グローカルアカデミア」（「総合的な学習の時間」３学年選択者 17 名　１単位）
・事前学習会（オンライン Google Meet を使用）　５/16(土)
県観光部による「ポストコロナの観光・マイクロツーリズム」に関するオンライン講座
・SDGs 地方創生会議 国際会議「グローカルアカデミアオンライン 2020」　５/23(土)
オンラインのメリットを生かし，生徒自らが国内外から参加者を集めて実施。マイクロツーリズムをテーマに議論を行い，英語で発信。ゲストから高い評価をいただいた。ゲスト岡根谷　実里氏（世界の台所探検家）　David Bromell 氏（NZ，カンタベリ大学教授）
・まとめとしてポスター・英語エッセイを作成　６月～９月
（エ）「英語キャリアプロジェクトⅠ」　NGP 学校設定科目＊　１学年全員　１単位
＊「情報」と「英語」を融合させた授業。ICT 基礎スキル及び英語４技能の向上を図る。
・Show & Tell Treasure Presentation　９/19(土)
スピーキングスキル養成を目標に，１年生全員が英語発表。その成果を評価
・APU（立命館アジア太平洋大学留学生）との遠隔インタビュー　12/２(水)・３(木)・４(金)連携協定を結んだ大学の留学生を対象にした WEB インタビュー。地歴公民科と連携
・パーラメンタリー・ディベートクラスマッチ　３/４(水)
（オ）「英語キャリアプロジェクトⅡ」　NGP 学校設定科目＊　２学年全員　１単位
＊「情報」と「英語」を融合させた授業。ICT を活用した遠隔地との協働学習及び場面に応じた英語運用能力育成を目指す。
・台湾との協働プロジェクトへ向けた ICT 活用及びビデオ編集スキルトレーニング
・交流校とのライブ会議へ向けた準備
・ビデオ制作（台湾との協働プロジェクト）
・パーラメンタリー・ディベート，エッセイライティング
（カ）台湾高級中学校７校とのクラス別オンライン交流（台湾研修の代替）２学年全員
・交流校とライブ会議実施（国際会議）

１組：高雄市立仁武高級中学	10 月 16 日（金）
２組：高雄市立新興高級中学	10 月 30 日（金）
３組：国立高雄師範大附属高級中学	10 月 14 日（水）
４組：高雄市立鳳山高級中学	10 月 27 日（火）
５組：高雄市立瑞祥高級中学	10 月 21 日（水）
６組：高雄市立高雄女子高級中学	10 月　7 日（水）
７組　高雄市立高雄高級中学	10 月 19 日（月）

・International Project Award
プロジェクトの成果を表彰するオンラインセレモニー及び学校別交流　11 月 30 日（月）
（キ）校外との連携プログラム（Google Meet を活用した教科等横断型授業）
・地歴公民科×総合学習「青年海外協力隊看護師が語るザンビアの栄養と健康」生徒 50 名が参加
・地歴公民科×英語科×総合学習「ザンビアの鉛汚染」講師：中田北斗氏（北海道大学研究員）本校だけでなく，県内外２校の生徒も参加できるよう工夫し，他校との連携・学びの共有を図った。

④　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
・SGH 事業で開発した「英語プロジェクト」は，英語科を中心とする指導体制が整っているため，英語科を核に，他教科や外部機関とも連携を図りながら「英語キャリアプロジェクト」を発展させている。（特に本校の教員だけでは対応が難しい「情報」などの専門分野については，「総合的な探究の時間」において外部講師を活用）
・「総合的な探究の時間」については，グローバル事業推進室を中心に学校全体が関わる体制ができているため，コンソーシアムとの協働・連携を強化し，今年度から実施している個別の課題研究の指導・支援体制を整備
・学校のカリキュラムに合わせて，必要なコンソーシアム担当者会議を開催する。

⑤　学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

・「グローバル教育推進室」を中心に，各教科及び各係と緊密に連携した全校指導体制のもとで事業を推進
・１・２年生は，全員が「総合的な探究の時間」を中心に課題研究に取り組んだ。（１年生は「長野のグローカル戦略を探る」におけるグループ研究、２年生は「SDGs から見た長野のグローカル戦略」における個別研究。）
・３年生は，「総合的な学習の時間」の選択科目「グローカルアカデミア」において、個別課題研究に取り組んだ。
・１年生のグループ別課題研究および２年生の個別課題研究については，生徒の研究テーマに応じて校長・教頭を含む全教員が担当となり，全教員が自身の専門性を生かし，生徒の設定する研究テーマに応じて適宜指導・助言を行う。また、コンソーシアムの協力を得て，校外の有識者からも指導・助言をいただく体制づくりを行進めている。
・「グローバル教育推進室長」は，海外交流アドバイザー･地域協働学習実施支援員と協力し，コンソーシアムとの連絡・外部講師の招聘・予算の適切な執行等に努め，事業を円滑に推進する。

⑥　カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の校内における役割・位置付け

（ア）海外交流アドバイザー

〇恵崎良太郎（松本空港国際化特別顧問）

・SDGs 国際会議 in Taiwan のコーディネート（学校交流，海外インタビュー）
・長野県が交流協定を結んでいる各国からの留学生受入

（イ）地域協働学習実施支援員

〇岩破幸平（東京海上日動火災保険株式会社）

・地域課題設定アドバイザー，広域フィールドワークコーディネーター

〇中村真紀子（元長野放送報道部及び広報部）

・フィールドワークにおける校内外の情報集約及び調整。
・外部講師の招聘，調整，学校のＨＰによる地域・社会への発信。

⑦　学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，計画・研究方法・成果を定期的に評価し，改善していく仕組みについて

・「事業研究委員会」（グローバル教育推進室及び学年課題担当者会･各班担当者会からなる）は，「事業評価委員会」より定期的に評価･助言を受ける。
・管理機関との連絡を密にし，恒常的に指導・助言及び必要な支援を受ける。
・管理機関が設ける運営指導委員会を年２回開催し，研究開発の進捗状況全体について専門的な見地から指導・助言を受け，必要な改善点を明確化する。
・年２回開催する運営指導委員会の事業全体に対する指摘を踏まえ，年２回実施する事業評価委員会及び年３回実施するコンソーシアム担当者会議において，個別の企画について検討を行い，具体的な修正・改善を加える。

⑧　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

・生徒自らが，的確な課題を設定し，その解決につながる実効性ある政策を提言する力を身に付け，将来「長野県　SDGs 未来都市計画」を実現して魅力ある長野を創造する人材となるよう，共通認識のもとで学びの場を提供するとともに，計画的・継続的な助言・支援を行う。

⑨　運営指導委員会等，取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

・７/30(金)，２/９(火)の２回，運営指導委員会を開催。委員５名による指導・助言
・７/９(木)，12/16(木)，２/22(月)の３回，コンソーシアム担当者会議を開催。担当者による情報交換，助言

⑩　類型毎の趣旨に応じた取組について

（ア）グローバルなスケールでキャリアデザインを始める科目「英語キャリアプロジェクトⅠ」

・「英語プレゼンテーション大会」では，自分の好きなテーマについて説明することで，英語で積極的に発信する態度と運用能力の育成を図った。
・「総合的な探究の時間（SDGs から見た長野のグローカル戦略）」と連携し，グループでのブレインストーミング，ディスカッション講座等を実施。英語で思考・議論する国際的対話力の育成を図った。
・パーラメンタリー・ディベートを通じて，自分の立場を踏まえ，的確に主張するトレーニングを行った。
・APU(立命館アジア太平洋大学)と連携し，多様な文化的背景を持った留学生へのインタビューを実施。グローバルな視野の獲得に資することができた。

（イ）海外プロジェクトを通して，グローカルファシリテーター育成を目指す科目「英語キャリアプロジェクトⅡ」
・One-minute Challenge（自分で選んだトピックについて１分間英語でわかりやすく説明をする活動。）一斉休校中はモデル動画を教員が作成・配信し，オンラインで実施。
・２学年全員が台湾の高校生との協働によるグループプロジェクト，ビデオ協働制作プロジェクト「Who is Our Hero?」に参加。Google Meet を使った話し合いでテーマを決め，Google ドライブなどのクラウドを活用してビデオを作成。優秀な作品を表彰した。国際プロジェクトを通して相互理解を深め，自らの役割を認識する契機となった。
・グローバル講師や ALT との TT による授業では，プロジェクト型体験学習を通して，英語での議論の仕方，ファシリテ―ターとしての役割，ICT 活用技術等を学んだ。様々な意見を踏まえ，英語で建設的に自分の意見を発信する力及び円滑に議論を進める態度の育成を図った。
・「総合的な探究の時間（SDGs から見た長野のグローカル戦略）」の授業と連携し，SDGs と地域課題の解決を目指すテーマについて，ディベートを行った。その結果，英語４技能に加えて，課題発見能力などを養うことができた。

（ウ）グローバルな経験を有する各界の専門家ゲストとして招聘し，グローバル・ローカルな視点から地域創生に資する提言を行う国際会議「グローカルアカデミア」の実施
・長野高校にゆかりのある海外在住の８名のゲストに加え，地元高校５校の代表生徒，早稲田大学，慶応義塾大学，長野県立大学生と，本校代表生徒がオンラインで議論。全校生徒・職員が会議の様子を YouTube Live で視聴。参加生徒は，提言を英語で広く発信した。
・課題研究の個別プロジェクトをまとめたポスターと，500 語で作成した英文エッセイを報告書にまとめた。

（エ）リーダー研修と海外交流を通じて生徒を育てる「グローバル人材育成プロジェクト」
・３月７日（日）諏訪にて，米国 Eaglecrest High School・台湾義守大学とオンラインプロジェクト（インターナショナルアニメトーク）を実施。長野高校生が，日本語を学ぶ海外高校生のプレゼンテーションのサポート及びディスカッションの司会・進行を日英語で務めた。日本のアニメをテーマに日本文化の紹介・交流を行った。

⑪　成果の普及方法・実績について
（ア）　発表会の公開：「グローカルアカデミアオンライン 2020」（オンライン限定公開）
（イ）　職員研修会
・校内進路係・NGP 事業推進室共催　オンライン研修会　４月 14 日(火)
・校内教務係・NGP 事業推進室共催　Google Meet 運用に関する研修　８月２日～４日
・近大附属高等学校 ICT 担当者とのオンライン会議　９月 28 日（月）
・ロイロノート研修会　１月 12 日（火），３月２日（火）

・福井県立高志高等学校とのオンライン会議　２月 26 日(金)

（ウ）　地域との連携　（以下は，長野県 NPO センターとの連携）

・第６回　全国ユース環境活動発表大会（地方大会）12 月にオンラインで実施

・第６回　全国ユース環境活動発表大会（全国大会）２月にオンラインで実施
本校生徒が代表を務める学生団体 Gomitomo の環境保護活動が高く評価された。

・SDGs 次世代フォーラム（長野県主催）に学生代表として本校生徒発表

（エ）　HP,SNS の更新：NGP ブログによる情報発信，インスタグラムの活用

１１　目標の進捗状況，成果，評価

（１）進捗状況　　以下の仮説に基づき,目標達成へ向けて概ね順調に推移している。

仮説１	高校生が地域創生に向けた効果的な協働を通じて主体的に活動することで，長野県が「SDGs 未来都市･学びの県」にふさわしいグローカル人材育成の場となる。
仮説２	PBL 型の英語教育と教科横断型の学びを通じて，グローカル視点のキャリア観を段階的に育成することで，グローカルファシリテーターとしての資質が養われる。
仮説３	コンソーシアムと協働し,レイヤー的思考,ブレイクスルー発想,国際的な対話力を養成するカリキュラムを開発することで,生徒の探究的な学びの質が高まり,実効性の高い政策提言を可能にする。

・「SDGs 地方創生国際会議」のオンライン開催による「グローカルアカデミア」の開発　（３学年「総合的な学習の時間」）

・コロナ禍における制約はあったが，オンライン又は感染対策を取りながら以下のプログラムを継続的に実施
「ディスカッション講座」「インタビュー実践」「フィールドワークⅠ」「課題研究中間発表会」（以上１学年「総合的な探究の時間」）「英語キャリアプロジェクト発表会」「APU 留学生とのオンラインインタビュー」（１学年「英語キャリアプロジェクトⅠ」）「フィールドワーク相談会」「フィールドワーク」「課題研究発表会」（以上２学年「総合的な探究の時間」）

・台湾の高校生とのビデオ協働制作プロジェクト「Who is Our Hero?」及び「総合的な探究の時間」と連携した，ディベートプログラム「Town Meeting Debate」を開発（２学年「英語キャリアプロジェクトⅡ」）

・令和２年度，コンソーシアムに「八十二銀行」が新たに参加

・オンラインを活用し，校外と繋がる教科横断的な授業を実施

・課題研究の課題設定においてコンソーシアムから生徒にアドバイスをもらう仕組みを開発

・コロナ禍で当初の研究実施計画の一部変更をせざるを得なかったが，構想調書に記載した設定目標の実現へ向け，研究を推進している。

（２）成果及び評価

今年度外部との協働により開発・改善した主なプログラム
１年　ディスカッション講座，インタビュー実践，APU 留学生との遠隔インビュー
２年　オリエンテーション，FW 相談会，フィールドワークⅡ，ビデオ協働制作プロジェクト「Who is Our Hero?」，プロジェクト発表会・課題研究発表会
３年　SDGs 地方創生国際会議による「グローカルアカデミア」

（ア）学びの個別最適化を目指した課題研究　【前年度報告書　課題１に関連して】

・生徒が主体的に地域とつながりながら研究・活動をするようになってきた。

・今年度から，１年生はグループでの課題研究，２年生は個別の課題研究を行う体制に変更し，

学びの個別最適化を図った。その結果，教職員やコンソーシアムからの指導・助言を生かしながら，より多くの生徒が意欲的に課題研究に取り組めるようになった。

・プロジェクト発表会での発表形式を自由にした。その結果，創意工夫のある発表が行われ，内容も充実させることができた。

（イ）海外とのつながりを生かして，地方創生を目指す国際会議の開催（「グローカルアカデミア」の開発）【前年度報告書　課題２，３に関連して】

・「グローカルファシリテーター」のロールモデルを校内外に提示

・県内の高校５校より５名の生徒が参加。成果の普及が期待される。

（ウ）YouTube Live（限定配信）を活用し，コンソーシアムや学校関係者に校内活動の共有を行った。また HP 上で，ブログの充実を行っている。　【前年度報告書　課題４に関連して】

（エ）オンラインを活用した教科横断型の授業実践の増加【前年度報告書　課題５に関連して】

・それぞれの取組に参加した生徒は，学びに対しての意欲を示している。

・２学年ビデオ協働制作プロジェクトでは，生徒がそれぞれの資質・能力や興味・関心を生かしながら世界とつながり国際貢献に資する体験をすることができた。

（オ）SGH 事業で確立したオンラインシステムにより，探究学習や交流活動をオンラインに移行

・Google for Education を活用し，３月からの一斉休校時にもオンラインを活用し学びを継続。生徒・保護者から高い評価を得た。

・台湾の高校生とのビデオ協働制作プロジェクト「Who is Our Hero?」は，現地の生徒や教育現場からも高く評価された。

１２　次年度以降の課題及び改善点

（１）研究開発の仮説１（SDGs 未来都市・学びの県にふさわしいグローカル人材育成）について

① 卒業生や地域からのフィードバックを参考にした成果の検証

② WWL，マイプロジェクトとの連携による県内教育への成果の還元

③ １人１台タブレットの導入に伴う授業改善

（２）研究開発の仮説２（グローカルな視点でのキャリア観の育成）について

① 海外とのネットワークを活用した,双方に利益のある持続可能な交流モデルの開発

※次年度は,APU 立命館アジア太平洋大学（連携校）と協働事業を開発中

② グローカルファシリテーター育成モデルを活用した学校全体での総合教育モデルの開発

（３）研究開発の仮説３（カリキュラム開発，実効性の高い政策提言）について

① 個別課題研究の実施に伴う指導体制や評価方法の見直し

② 地域との協働による実効性の高い政策提言づくり

課題研究をプロジェクト化する生徒が出てきている。課題発見・課題設定・提言づくりの各段階において，コンソーシアムの協力体制を強化するとともに役割を明確化し，実効性の高い政策を提言できるようにしていく。

【担当者】

担当課	長野県教育委員会学びの改革支援課	ＴＥＬ	026-235-7435
氏　名	長嶋　幸恵	ＦＡＸ	026-235-7495
職　名	指導主事	e-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp